



アフリカ開発会議と 長崎大学

去る8月27、28日の両日、ケニアのナイロビ市で第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)が開催され、長崎大学教職員10名とともに参加しました。ほとんどのアフリカ諸国の元首の出席を得るとともに、日本側も安倍首相をはじめ多くの閣僚、副大臣や榊原経団連会長を筆頭に主要日本企業のCEOが参加するなど、近未来の地球・人類の持続的発展の鍵を握るアフリカ大陸への目に見える貢献に向けた、日本の総力を傾注した取り組みとなりました。

ハイライトは、安倍首相による基調演説でしたが、その中で印象に残ったのは、日本の貢献のキーワードは“Quality & Sustainability”であると述べられたことです。産業や科学技術の分野に止まらず保健医療システムを含めた社会インフラ整備の面においても、質の高い長続きのする貢献こそが日本の持ち味であることを強調されました。

本会議以外にもさまざまな専門分野ごとに多くのサテライト会議が開催され、日本と



アフリカ諸国の専門家同士の議論が行われましたが、参加した大学の中では長崎大学の存在感が際立っていたように感じました。1960年代の「風に立つライオン」時代から現在のケニア拠点を中心とした感染症対策・研究に至るまで、半世紀にわたる現地に

寄り添った本学の保健医療分野での貢献の蓄積は無論のこと、近年のビクトリア湖における工学・水産学系教員による水環境改善・水産業振興プロジェクトの成果も高い評価をいただきました。いずれも、本学の特長である質の高い実学に根ざした現場力の賜物です。

グローバル化が急速に進行する中、地域創生の取り組みにもグローバルな視野が不可欠であり、同時に地域における取り組みの中にこそ地球規模課題の解決のヒントを見出すことができる。そんな時代です。学生諸君には地域に在っても常に世界を意識しながらさまざまな現場を経験してほしいものです。そこから、現場力に溢れた長崎大学ブランド人材が育ちます。

片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
「チョーホー」
Choho Vol.57

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前にご連絡をお願いします。

学長室だより	アフリカ開発会議と長崎大学	1	表紙のはなし 来年3月でいったん閉まることが決まった長崎市の新大工町市場。市民の台所ともいべきこの市場で、期間限定の店舗「学生市場」を企画運営したのが経済学部の橋口浩暉さんと灘瑞穂さんです。「地域の人の温かさに支えられました」と特集でも語る2人。周囲の商店主から声援も飛び、打ち解けた撮影となりました。
特集	現場で『実践力』を鍛える長大生	2	
サークルの星!	吹奏楽部 NUBB/全学フットサル部 FORZA/ボルダリング部	13	
研究最前線	エボラウイルス病やジカ熱を制圧へ	15	
卒業生に聞く	平 浩介さん	17	
グラバー図譜	アカムツ	19	
Information	2016長大祭	21	
	クイズ & 編集後記	21	